

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成24年 8月11日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771101181		
法人名	有限会社 清寿会		
事業所名	グループホーム正寿苑		
サービス種類	介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府岸和田市稲葉町2552-2		
自己評価作成日	平成24年6月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月4日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp">tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成24年7月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは山や緑に囲まれて自然豊かな環境の中山の色や匂いで四季が感じられます。苑庭には春になると桜がきれいで、鶯の鳴き声が聞こえてきます。庭にはデッキスペースがあり一緒に洗濯物や布団を干して「ばんばん」と布団をたたく音が聞こえる、「とんとん」と包丁の音や煮物など匂いがして普通の生活がとても感じられます。又毎月本人の状況をお伝えする報告書や「正寿苑だより」で日々の暮らしを家族や地域の方にお知らせしています。職員一同が自分の家族のように利用者の目線で支援を心掛けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム正寿苑は岸和田市の山手地区にある。事業所周辺に民家は少ないが、野菜畑やみかん畑、竹林などが広がり、豊かな自然環境に恵まれている。居間兼食堂から一歩外に出れば、そこは広大な庭で、ウッドデッキを伝って、花や野菜の畑、池、葡萄棚、竹林、その他草木などに触れることができ、十分に四季を満喫することができる。

管理者は、事業所理念をさらに具体化したユニットごとの理念を、職員の自由な発想による提案を取り入れる「ブレインストーミング法(BS法)」というユニークな手法を用いて作っており、日々のケアで実践につなげている。

また、事業所では、入居時から今日までの暮らしぶりを写真で綴っているアルバムを利用者ごとに作り、各ユニット玄関に置いており、本人はもとより訪れた家族がすぐに手に取り見ることが出来るようになっている。さらに、家族に対して年間1回の家族会の他満足度アンケートを実施し、寄せられた意見をもとに、より良いサービスの提供に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価（A棟）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭において各ユニットの理念を作成しスタッフが共有して取り組んでいる	開設時以来の事業所独自の理念がある。また、この事業所理念に基づいたユニットごとの理念を職員間で話し合い、作成している。これら理念を各ユニットの玄関に掲示し、全職員が理念の共有を図るとともに、日頃からケアの中でこれら理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（公民館まつり、掃除など）へ参加させて頂いている。日常的までとはいかないが認知症の方が地域で暮らし続けることの普及活動などを行っている	公民館まつりや盆踊り、近隣の溝掃除など地域の行事には利用者と一緒に参加している。また、周辺の介護施設などと共同で介護に関する相談会や講演会を実施するなど、地域に向けて、介護や認知症などの理解を深めるための啓発活動等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の方に養成講座を行い、日々の暮らしの中でできる工夫や理解について伝えている。実際に見学に来て頂き利用者との交流を図って頂く事もある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や苑の報告をして意見交換などしている。地域の独居の方への支援の為に包括、社協、CSWにも参加して頂き、連携して小地域ネットワークの取り組みを進めている	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域の代表者、市の介護保険課職員などが参加し開催している。事業所の現況や活動内容の報告をはじめ、地域の行事などの情報提供があり、意見交換が行われている。会議の内容を朝礼で報告するほか、職員は議事録を閲覧し内容を把握している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	岸和田市介護保険事業所連絡会を通じて互いに情報交換を行っている。又、困った時などは相談や報告して協力して頂いている。	市の担当者は運営推進会議に毎回出席している。また、事業所からの困難事例の相談にも親身に対応してもらえるなど、日常的に協力関係が保たれている。さらに、当事業所が岸和田市事業所連絡会の事務局になっており、市の担当者とは定期的に連絡をとっている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間帯は玄関の施錠を行っているが本人の希望があれば、スタッフと一緒に外に出て頂くこともある。安全で自由な環境に取り組んでいる。身体拘束につながるケアは苑全体で理解し一切行っていない。</p>	<p>日中は玄関の施錠をしていない。日常的にはユニット合同の朝礼時において身体拘束について職員間で注意を促している。身体拘束に関する研修も事業所内にて実施しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を行い、高齢者虐待とはどういうものなのか理解してスタッフが共有の視点を持って注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現入居者に権利擁護を活用している方がおり日常生活支援の担当の方が月1回来苑されて相談や報告をしている。現在も成年後見の活用に向けて進めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に重要事項について説明して質問や疑問点を確認したうえで契約している。入苑前後に関わらずいつでも気軽にわからない事は聞いていただけるように伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度、介護相談員が来苑して利用者さんと交流を持ちながら要望などを聞いておられる。又意見箱の設置や契約時には相談窓口の説明を行っている。</p>	<p>事業所内に意見箱を設置している。また、年に1回開催している家族会や、家族向けに満足度アンケート（年に1回実施）を通して、接遇や運営など様々な点について率直な意見を聞き出すことができている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別に声をかけて意見を聞けるよう心掛け、提案については他意見も聞いて集約、検討し反映しているが、不十分である。</p>	<p>管理者はミーティング時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また各ユニット主任と介護職員との個別面談を実施しており、運営に関する意見等を聞きだしている。意見をもとに車いす等の物品を購入するなど、日頃の運営に反映させている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者から報告や勤務状況を聞き、環境や条件に整うよう心掛けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々に応じて苑内外の研修を受けるよう心かけているが、実勤務外の研修やシフトを考慮すると十分とは言えない。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>介護保険事業者連絡会、キャラバンメイトなどを通じて他事業所、他職種の方々と交流することで情報交換している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に苑に来て頂き、一緒の時間を過ごしていただくようにしている。又体験で2～3日泊まって頂き、いろんなお話をしながら本人の不安が軽減できるよう配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に本人の暮らしの情報や体験利用で今後の本人の生活をどう支援していくのかを家族と一緒に考えている。又、要望などについては個別に納得頂くまで話し合っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学や相談がある時点でよくお話を聞いてその時、本人にとって必要としているサービスへの支援をしている。本人や家族にとって良いと思える情報等について提供している。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	制服を作らず、介護される、する立場ではいつも一緒に居ると思っているが、時折介護している立場で会話してしまうこともある。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状を把握しながら、無理のないよう協力して頂きながら、本人と家族の関係を構築する支援をしている。本人の要望がスタッフでは困難な場合理由などをきちと説明して家族にしかできない支援の協力を仰いでいる。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とはもちろん、馴染みの友人や親せき、近所の方との交流が出来るよう外出や手紙、電話、季節のハガキなどで交流できるよう支援している。	友人や親類宅など馴染みの場所には家族の協力を得て、訪問できるようにしている。また、友人、知人や親類が尋ねてくる利用者もあり、電話やハガキにより積極的に受け入れできるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の認知症の状態（食事やADL）や利用者同士の会話などを日々様子を見ながら一番良いと思われるテーブル配置や外出支援、入浴の順番に配慮している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族が来苑され、思い出話をすることもある。退苑後もケースワーカー、権利擁護の支援などを通じて関係機関と連携して支援に努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑時に生活歴や趣向、現在の暮らしの情報の中から本人や家族からも意向を聞いて支援している。困難な場合は本人の言動や思いに傾聴している。	センター方式を採用している。利用者本人の思いや意向などは利用者の日頃の言動や家族との会話の中で把握している。介護記録に記録した情報は職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
----	--	---	---	--

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑前に家族や連携職種から情報を得て入苑後は本人との会話や言動から把握している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入苑時から本人のできる事や出来ない事の見極めをして本人が出来ることを自信を持ってできるような支援をしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催の案内を家族に送付している。電話で日程調節を行ったうえで開催し家族の意向を聞き取っている。本人の思いやその人らしく暮らせるようプランをスタッフ全員でカンファレンスで見直し、検討してプランを作成している。	通常は3ヶ月ごとに、状態に変化が見られるときは随時、ケアカンファレンスを介護支援専門員、職員、家族の参加のもと実施し、介護計画を見直している。日々の家族との会話を通して得られた要望等を介護支援経過表に記録しており、家族の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を申し送りノートやセンター方式に記録し気づきや工夫をケアに繋がられるよう情報を共有している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の事情や生活歴などからその時に必要とされるニーズに対していろんな発案しできる限り本人が希望する対応を心掛けている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰されている宗教の方が来苑されたり、認知症の事を理解したうえで地域の方が来苑し交流を図って頂く事がある。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入苑前に主治医から情報を得て家族と相 談しながら、本人の状態の報告を通じて 関係を築いている。	利用者や家族等の希望するかかりつけ 医での受診ができるように支援してい る。内科医や歯科医の往診が隔週にあ り、近隣の医療機関への受診には職員 が同行支援している。受診の結果は記 録し、家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	担当の看護師に日常の生活や体調は報告 し、D r 不在の時などは相談に乗って頂 き適切な受診ができるよう支援してい る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は本人の情報 必要なも のの準備をし状態や入院期間などD r や ケースワーカー、家族と連携、情報交換 し早期退院に向けて支援して。普段よ り空室の情報などを通じて連絡を取り 合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて家族の意向や状況に応じて 重度化、終末期について話し合ってい る。家族には入苑前にきちんと説明をし ている。	利用開始時に利用者や家族等と重度化 した場合や終末期の対応方針を説明 し、関係者間での方針の統一を図って いる。希望があれば出来るだけ事業所 での生活が継続できるように支援して いる。利用者の状態の変化に応じて主 治医、家族等、職員と話し合い、連携 を取りながら意向に沿えるよう取り組 んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	研修は行っていないが、マニュアルを作 成し常に初期対応の仕方については伝達 している。実践の中から身につけてい る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	消防訓練は日中、夜間を想定して行っ ている。運営推進会議等で町内への協力依 頼をしている。	年2回消防訓練を実施している。スプ リンクラールを設置し、研修ではビデオ で通報装置の使用方法等の勉強会も実 施している。避難訓練には近隣住民の 参加もあり、また非常時における地域 との協力体制も構築できている。飲料 水、食料品は2、3日分の備蓄があ る。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの思いを大切に心にかけているが、難聴な方に対して言葉かけする際、大きな声になってしまうことがある。</p>	<p>利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、日頃から言葉遣いや接し方に配慮している。接遇マナーやプライバシー保護に関する研修を実施し、ミーティング時にも話し合っている。個人記録類は事務所の鍵のかかる戸棚に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いに傾聴し、表情や普段からの発言から希望に沿った生活が送れる支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調や状態を考慮し、本人のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整容を促したり、上下の服のバランス、季節に合った服装が出来るよう、衣替えや着替えの準備を一緒に行い、希望があれば毛染めなどもしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>苑の畑で収穫した野菜の下ごしらえをして頂いたり、利用者の好みをお聞きして献立を考えて提供している。後片付けやなどは個々の状態に応じてして頂いている。</p>	<p>利用者の好みや希望を聴き取った献立を職員が作成している。事業所の畑でトマト、じゃがいも、たまねぎ等の季節の野菜を収穫し、肉、魚は業者から購入している。他の食材は利用者と職員が買い物に行っている。みかん狩りや花見等の行事の際には弁当を作って持って行ったり、誕生日にお寿司を食べに行くこともある。利用者は調理の準備や下膳を手伝い、職員と一緒に会話をしながら食事をしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に食事量や水分量を把握して、その日の状態などに応じて形態などに対応し、職員間で情報を共有している。必要に応じて個別にお菓子など提供している。</p>		



42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後、口腔ケアの声かけを行い、夜間は義歯の洗浄を行っている。必要な方は歯科受診による口腔ケアを行っている。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して状態に応じて誘導、介助している。</p>	<p>排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じてタイミングよく声かけをしてトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁時やトイレ介助の際に羞恥心に配慮した支援をしている。夜間のオムツ使用者は1名で、ポータブルトイレを使用する場合もある。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックを行い個々の排便リズムを把握し、水分摂取、運動、Drの指示による服薬で予防している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には週3回入浴して頂いている。その日の状態に応じて自立支援、介助。リフト浴をして頂き希望があれば、隣のユニットで入浴して頂いている。</p>	<p>週3回午後から入浴支援を行っているが、利用者が希望すればいつでも入浴できる。浴室はゆったりと入浴を楽しむことができる広さを確保している。2ヶ所ある浴室の1つにリフト浴を導入し、入浴が困難な利用者が安心して入浴することができるよう配慮している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の生活習慣に応じて布団やベッドを使用して頂いている。体調を見ながら無理なく休んで頂いている。天候が良い日は天日干しをして清潔を心掛けている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診前にはカンファレンスを行い利用者の状態の把握、受診同行、記録を行いスタッフ間で情報を共有し服薬管理を行っている。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外出や行事を通じて個々の特技や趣味を活かして希望をもって楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>一緒に買い物や公園などにお弁当を作って出かけたり、町内の公民館まつりなど招待して頂いたりしている。家族とは外食など外出の協力をしている。</p>	<p>日常的には食材の買物（週に1回程度）や散歩等の外出支援に努めている。また気候が良い時期には、久米田寺や岸和田城への花見、みかん狩り、リサイクル公園等への遠足に出かけている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、家族に紛失の可能性の了解を得て所持して頂いている。買い物に同行した時などには本人が使えるよう支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、いつでも事務所の電話を使用している。家族や友人からの電話や手紙は本人に取り次いでいる。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングからは苑庭が見え明るく四季折々の花や樹木をみることができる。リビングには季節の花などを飾ったりしている。</p>	<p>ソファ、テレビを配置した居間兼食堂の壁には行事（七夕祭り）の写真を飾り、事業所での楽しい暮らしぶりの一面を伺うことができる。また居間から通じている苑庭には竹林が広がり、風が吹けば心地よい笹の音が聞こえる。また葡萄棚や樹木その他季節の花や野菜を楽しむことができ、自然に囲まれた落ち着いた暮らしを満喫できる環境である。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の席については個々の状態に応じて設定しているが希望がある場合や楽しく会話や食事ができるよう工夫している。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入苑前に本人の使い慣れた家にあるものを持ってきていただくようにしている。馴染みの布団やベッド箆笥や机や家族の写真や置物などで本人が過ごしやすいよう工夫している。</p>	<p>洗面台、押入れが備え付けとなっている。居室は畳敷きであり、利用者の好みにより、直に布団を敷いたり、ベッドを利用することもできる。利用者は居心地よく暮らせるよう、自宅で使っていたタンス、時計、椅子、机、ぬいぐるみ、家族の写真、仏壇や遺影など好みのものを持ち込んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の状態を把握してスタッフ間で情報を共有し一人ひとりが役割を持ち安全に生活できるよう環境づくりをしている。</p>	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（B棟）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭において各ユニットの理念を作成しスタッフが共有して取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（公民館まつり、掃除など）へ参加させて頂いている。日常的まではいかないが認知症の方が地域で暮らし続けることの普及活動などを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の方に養成講座を行い、日々の暮らしの中でできる工夫や理解について伝えている。実際に見学に来て頂き利用者との交流を図って頂く事もある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や苑の報告をして意見交換などしている。地域の独居の方への支援の為に包括、社協、CSWにも参加して頂き、連携して小地域ネットワークの取り組みを進めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	岸和田市介護保険事業所連絡会を通じて互いに情報交換を行っている。又、困った時などは相談や報告して協力して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関の施錠を行っているが本人の希望があれば、スタッフと一緒に外に出て頂くこともある。安全で自由な環境に取り組んでいる。身体拘束につながるケアは苑全体で理解し一切行っていない。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を行い、高齢者虐待とはどういうものなのか理解してスタッフが共有の視点を持って注意している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現入居者に権利擁護を活用している方がおり日常生活支援の担当の方が月1回来苑されて相談や報告をしている。現在も成年後見の活用に向けて進めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に重要事項について説明して質問や疑問点を確認したうえで契約している。入苑前後に関わらずいつでも気軽にわからない事は聞いていただけるように伝えている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度、介護相談員が来苑して利用者さんと交流を持ちながら要望などを聞いておられる。又意見箱の設置や契約時には相談窓口の説明を行っている。</p>		
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別に声をかけて意見を聞けるよう心掛け、提案については他意見も聞いて集約、検討し反映しているが、不十分である。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者から報告や勤務状況を聞き、環境や条件に整うよう心掛けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々に応じて苑内外の研修を受けるよう心かけているが、実勤務外の研修やシフトを考慮すると十分とは言えない。</p>		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>介護保険事業者連絡会、キャラバンメイトなどを通じて他事業所、他職種の方々と交流することで情報交換している。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に苑に来て頂き、一緒の時間を過ごしていただくようにしている。又体験で2～3日泊まって頂き、いろんなお話をしながら本人の不安が軽減できるよう配慮している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に本人の暮らしの情報や体験利用で今後の本人の生活をどう支援していくのかを家族と一緒に考えている。又、要望などについては個別に納得頂くまで話し合っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援          サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学や相談がある時点でよくお話を聞いてその時、本人にとって必要としているサービスへの支援をしている。本人や家族にとって良いと思える情報等について提供している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係          職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>制服を作らず、介護される、する立場ではいつも一緒に居ると思いが、時折介護している立場で会話してしまうこともある。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係          職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の現状を把握しながら、無理のないよう協力して頂きながら、本人と家族の関係を構築する支援をしている。本人の要望がスタッフでは困難な場合理由などをきちと説明して家族にしかできない支援の協力を仰いでいる。</p>		



20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とはもちろん、馴染みの友人や親せき、近所の方との交流が出来るよう外出や手紙、電話、季節のハガキなどで交流できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の認知症の状態（食事やADL）や利用者同士の会話などを日々様子を見ながら一番良いと思われるテーブル配置や外出支援、入浴の順番に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族が来苑され、思い出話をすることもある。退苑後もケースワーカー、権利擁護の支援などを通じて関係機関と連携して支援に努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑時に生活歴や趣向、現在の暮らしの情報の中から本人かや家族からも意向を聞いて支援している。困難な場合は本人の言動や思いに傾聴している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑前に家族や連携職種から情報を得て入苑後は本人との会話や言動から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入苑時から本人のできる事や出来ない事の見極めをして本人が出来ることを自信を持ってできるような支援をしている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議の開催の案内を家族に送付している。電話で日程調節を行ったうえで開催し家族の意向を聞き取っている。本人の思いやその人らしく暮らせるようプランをスタッフ全員でカンファレンスで見直し、検討してプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を申し送りノートやセンター方式に記録し気づきや工夫をケアに繋げられるよう情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の事情や生活歴などからその時に必要とされるニーズに対していろんな発案しできる限り本人が希望する対応を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>信仰されている宗教の方が来苑されたり、認知症の事を理解したうえで地域の方が来苑し交流を図って頂く事がある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入苑前に主治医から情報を得て家族と相談しながら、本人の状態の報告を通じて県警を築いている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>担当の看護師に日常の生活や体調は報告し、Dr不在の時などは相談に乗って頂き適切な受診ができるよう支援している。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は本人の情報、必要なものの準備をし状態や入院期間などDrやケースワーカー、家族と連携、情報交換し早期退院に向けて支援してる。普段より空室の情報などを通じて連絡を取り合っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて家族の意向や状況に応じて重度化、終末期について話し合っている。家族には入苑前にきちんと説明をしている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は行っていないが、マニュアルを作成し常に初期対応の仕方については伝達している。実践の中から身につけている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は日中、夜間を想定して行っている。運営推進会議等で町内への協力依頼をしている。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを大切に心にかけているが、難聴な方に対して言葉かけする際、大きな声になってしまう事がある。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や表情から思いに気付くよう心かけている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望をお聞きしたり、天候が良い日は外気浴や散歩にお誘いして意に沿えるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整髪や衣類の乱れがないように気をつけている。季節に合った衣類が選べるよう、カットの際は好みの髪型になるようにして頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できるだけ、一緒にいただけるようにしているがほとんどが職員が行っている。献立はチラシなどを見ながら好みのもので得意な料理などお聞きして普段の会話からもヒントを頂きながら決めている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は記録して個々の状態に応じて栄養バランスを考慮して提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、歯磨きの声かけ、見守りをおこなっている。困難な場合は状態に応じて介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の状態を記録し排泄パターンに応じてプライバシーに気を付けた声かけ誘導、介助を行っている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄状態や量を記録して排便がスムーズになるように水分、食事、軽体操を取り入れながら、主治医の指示のもと服薬調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>希望を聞き入れながら、入浴のタイミングを考慮している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の睡眠に影響がでない範囲で居室やソファなどで自由にして頂いている。生活リズムが崩れない様日光浴や運動を取り入れている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>カンファレンス、介護記録、受診記録、申し送りなどで情報を共有して服薬による症状の変化には気をつけている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>好まれる事や得意とする事を一緒にして頂き、レクレーションや外出、季節の食事やおやつなど生き生きと過ごして頂けるよう配慮している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>家族との外食や買い物同行、誕生日の個別外出、地域の公民館まつりや盆踊りなどに出かけている。</p>		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、所持していただいている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、苑内の電話を使用いただいている。家族や友人から定期的に電話がある方もいる。又、年賀状など季節のお便りの支援をしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>音や照明、温度などに気を付けて季節が感じられるよう収穫した野菜や花などを提供して工夫している。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事以外は自由にして頂いている。廊下の椅子で一人で外を眺められたり、談話したり各居室でおしゃべりなどされている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ、家で使用していた馴染みの布団やタンスなどお持ちして頂き、写真や小物を自由に飾れるよう支援している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の状態に応じて見守り、声かけ、介助して安全で楽しく過ごせるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない



